

令和8年2月12日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立神領小学校

校長 北原 千穂

| 事業テーマ | 自ら考え、進んで表現するたくましい神領っ子の育成 ～じんサンタイムの充実から、自ら課題を選択する児童へ～ | |
|---|--|--|
| 取組の目的 | 本校は、令和4年度9月より主体的な関わり合いを重視した「じんサンタイム」に取り組み、子ども同士の関わる力、対話する力は着実に育ってきている。今年度も、この取り組みを継続し「あんしん」な環境を保障するとともに、コミュニケーションスキルを教科や行事に活かしていきたい。また、自己をしっかりとみつめ、振り返り活動を充実させ、一人ひとりの個性に合わせた深い学びを実現していくことを目的としていきたい。 | |
| 区分 (○印を付ける) | 新規事業・継続事業 (総事業年数4年間、4年目) | |
| 継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容 | 昨年度、じんサンタイムの充実に努める中で、SGE（構成的グループエンカウンター）の要素をさらに取り入れるべきであるという課題が明確になった。本年度はそれを踏まえ、振り返りの時間を確保・充実させることで、自ら課題を見出し、主体的に選択できる児童の育成を目指して取り組んだ。 | |
| 事業名 | 事業内容 | 実施時期 |
| ・関わり方を身に付ける ・自己をみつめる ・教育技術の向上 ・課題を選択する | <ul style="list-style-type: none"> ・じんサンタイムを学級経営や授業に取り入れ、他人とのより良い関わり方や、他人の行動や言葉から学んでいく姿勢を身に付ける。 ・ワークシートやICTを有効に活用し、各活動の振り返りを定期的に行い、自己評価、相互評価を実施する。 ・じんサンタイムで培った「あんしん」の環境の中で、教師自身が教育技術を向上させることで、深い学びにつなげる。 ・児童に自分の課題を選ばせるために必要な力をじんサンタイムや授業を通して培っていく。 | 4月～3月 4月～3月 4月～3月 9月～3月 |
| 取組の成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・じんサンタイムにおいて、アレンジを加えず決まった「型」を共有することの重要性を理解し、10分程度のスリムでシンプルな活動に徹することで、児童が取り組みやすく、どの教員でも担当できる体制が整った。 ・不登校やいじめの現状を踏まえ、児童の「心にいろいろな人を住ませる」という考え方を共有できた。教師が自然な価値付けを行うことで、人との関わりを意図的に作り出し、児童の個性を引き出す土台作りが進んだ。 ・発問をシンプルにし、課題提示を工夫することで、児童が目的意識を持ち、アドレナリンが出るようなワクワクした気持ちで主体的に学習に取り組む授業を行うための手立てを学び、教育技術向上につながった。 ・単元で育成すべき力を「系統・系列」の観点から捉え直すことで、教師側で「この時間で最も学ばせたい力」が明確になり、授業の意図が児童に伝わりやすくなり、授業力向上につながった。 | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・じんサンタイムにおいて、低学年での個人からペアへの振り返りや、高学年におけるお互いの気づきを伝え合う SGE（構成的グループ・エンカウンター）的アプローチなど、発達段階に合わせた振り返りの観点を提示し、定着させることが必要である。 ・単発の授業だけでなく、年間を通じた「系統」や「系列」を意識して教科書を分析する力は、まだ上の余地がある。特に国語などの教科において、長期的な見通しをもって児童に付けさせたい力を構成する分析力を磨くことを求めていきたい。 ・児童理解の向上の一つである、教師が「見守る」力を今後も高めていく必要がある。 | |

じんサンタイムの様子



現職研修の様子

